

周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

1. 概要

愛知県より東三河初の総合周産期母子医療センターに指定されてから5年が経過した。従来から東三河の周産期の基幹病院として、多くの母体搬送や産褥搬送を受け入れてきたが、総合周産期母子医療センターに指定されてからは、さらにより良い結果になるよう小児科新生児グループの医師と協力して、診断・治療を行っている。近年の出生数減少の影響で当院でも分娩数が減少傾向ではあるが、MFICUへの入院が必要な患者さんは減っていない。また、母体搬送は平成29年度より増加傾向である。ますます当周産期母子医療センターの必要度が高まっていると言える。

超緊急帝王切開は、帝王切開決定から児娩出までの時間が30分以内と義務付けられているが、小児科医師、麻酔科医師、手術室看護師、産科病棟看護師の協力により迅速に対応でき、日勤帯夜勤帯を問わずほぼ全例で達成できている。超緊急帝王切開施行症例数は県内でもトップクラスに多い。産婦人科当直医2人体制を維持するのは大変であるが、東三河地域において市民から信頼されるよう、また高度な周産期医療を維持するためスタッフ全員で努力している。

（センター長 河井 通泰）

2. 活動報告

(1) 主な症例数

	平成30年度
超緊急帝王切開	11件
うち30分以内児娩出	11件
うち他施設からの搬送	4件
母体死亡	0件
母体搬送受け入れ	207件
母体搬送応需不可	3件
母体搬送応需率	98.6%